

## 面会における国の動向

令和7年10月20日付け厚生労働省の通知により「5学会による新型コロナウイルス感染症 診療の指針 2025」が示された。同指針の中で、面会の考え方として、新型コロナウイルス感染症流行前の面会方法(頻度、時間など)を段階的に戻すという大きな方向性が示されており、「その時々の感染拡大状況ならびに社会的合理性も踏まえ、過度な面会制限にならないよう院内・施設内のルールを決定し、また必要に応じてルールを変更する等の柔軟な対応が必要」とされている。

## アンケート調査概要

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行から2年が経過したことを踏まえ、大阪府内の499病院を対象として、面会ルール(時間・続柄・人数の制限の有無等)に関するアンケート調査を実施。499病院のうち、324病院(64.9%)から回答を得た。

## 主な調査結果

※令和6年3月時点の状況については、令和5年度に実施した類似調査の集計結果を用いている。

図1. 府内病院における面会時間の推移

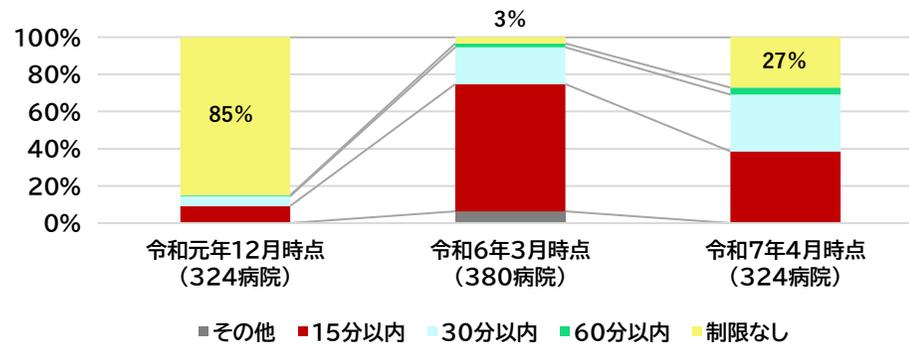
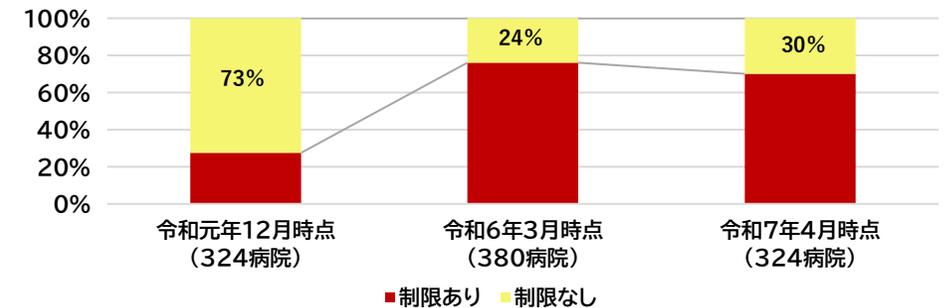


図2. 府内病院における面会者(続柄)ルールの推移



## 調査結果の報告について

面会の重要性と院内感染対策の双方に配慮して患者と面会者との交流の機会を確保いただくよう、本調査の結果と併せて、地方独立行政法人りんくう総合医療センター感染症内科主任部長・倭先生へのインタビュー記事(面会ルールに関するご見解)のコラムを作成し、府内病院に対して送付した。

## 倭先生インタビュー記事概要(面会ルールに関するご見解)

- りんくう総合医療センターでは、面会前の手指消毒や体温測定、面会中のマスク着用など、基本的な感染対策を来院者をお願いしている。これらの対策が適切に実施されている場合、飛沫感染や接触感染の観点からは、「面会時間」や「面会者の続柄」が感染リスクに大きく影響するものではないと考えており、同センターでは常識的な範囲で面会ルールの緩和を進めている。
- 面会は患者にとって精神面の安定を保つ上で非常に重要であり、患者の状態や病棟の特性に十分配慮しつつ、状況に応じて段階的に面会ルールを見直していくことが重要である。